

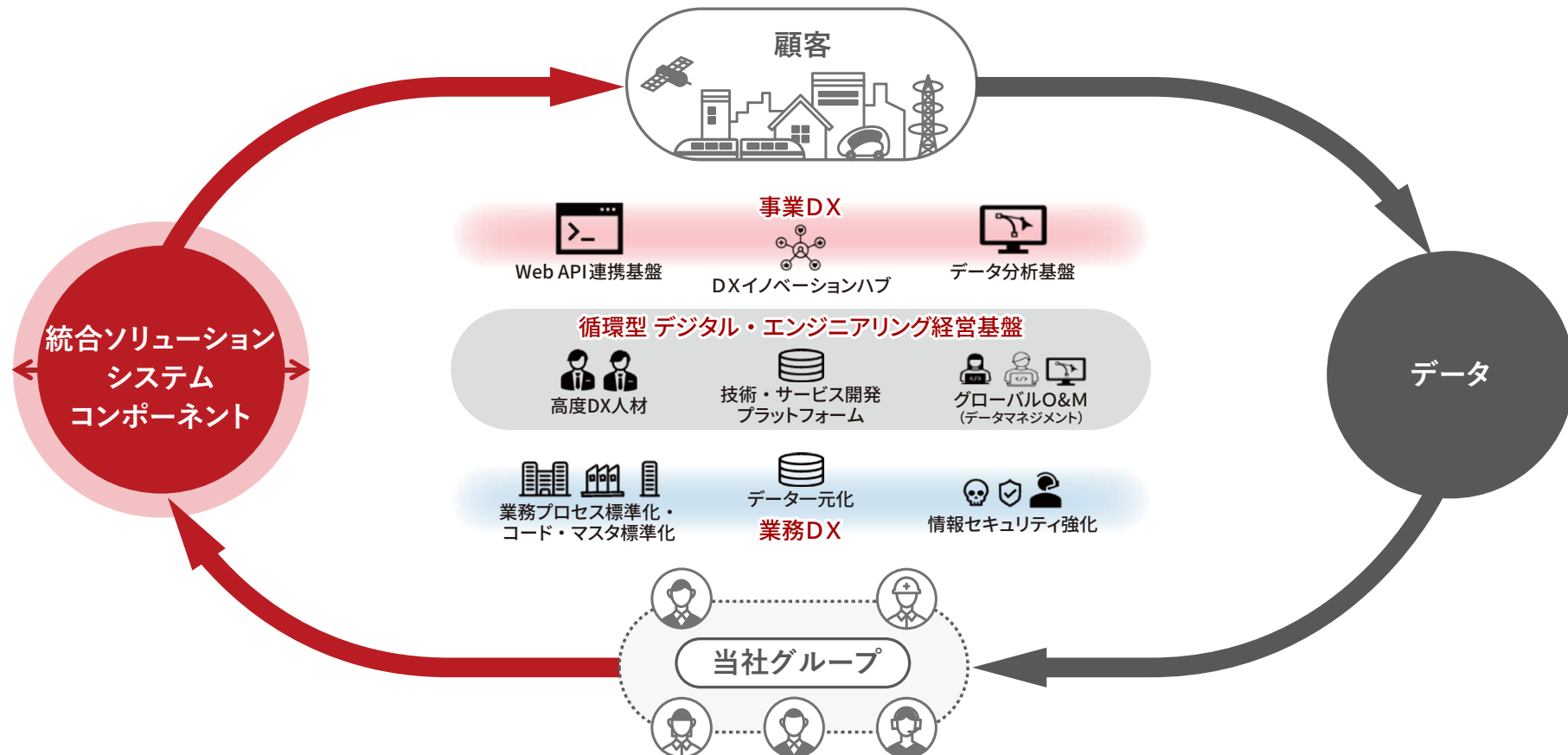
DX (デジタルトランスフォーメーション) 戦略

「循環型 デジタル・エンジニアリング経営基盤」の構築

三菱電機グループは、社会課題解決に向け、コンポーネント、システム、統合ソリューションの提供価値を更に高めるような「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」への変革を進めています。

この循環型 デジタル・エンジニアリングを実現する事業を効率良く創出、開発、運営することを目的に、「事業DX」と「業務DX」の両輪の取組みを通じて、「循環型 デジタル・エンジニアリング経営基盤」を構築していきます。

経営基盤では、「高度DX人材」や「技術・サービス開発プラットフォーム」、事業運営のための「グローバル オペレーション&メンテナンス (O&M)」を中心とした各種サービスを提供していきます。この経営基盤に実装されたサービスを各ビジネスエリア (BA)・事業本部が活用することにより、コンポーネントやシステムを更に進化させるとともに、統合ソリューションをスピーディーに創出・拡大していきます。

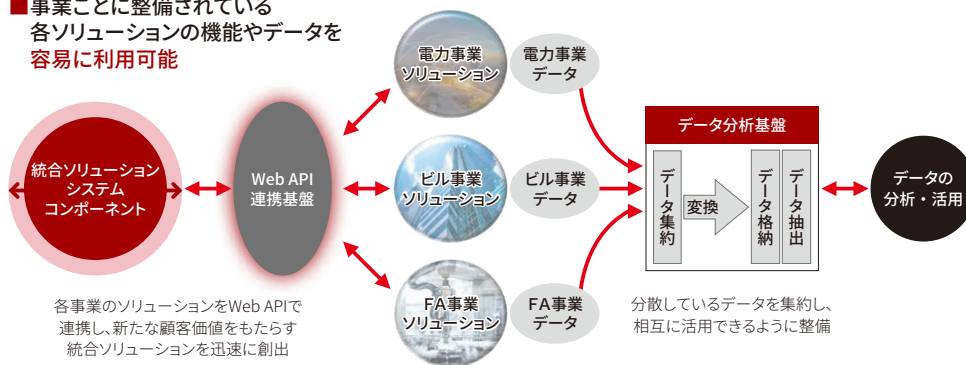


事業DX推進戦略

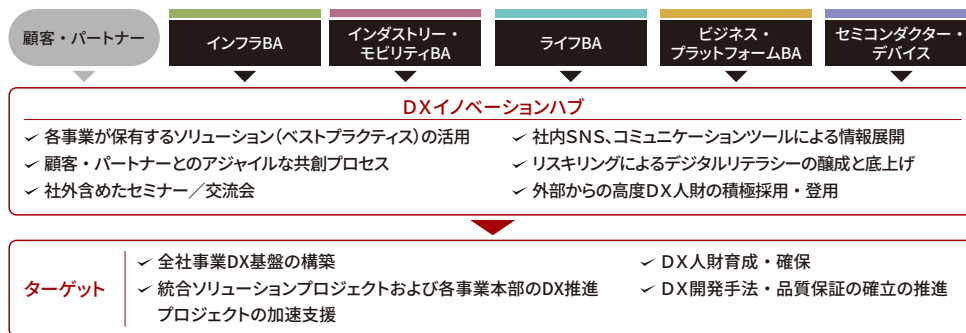
事業DXでは、各事業が保有する様々なソリューションの機能やデータを容易に相互利用できるようにするため、Web API連携基盤やデータ分析基盤を整備します。

Web API連携基盤を活用し、各事業のソリューションを連携し組み合わせることで、新たな顧客価値をもたらす統合ソリューションを迅速に創出します。また、データ分析基盤により、各事業を通じて蓄積されたデータから新たな顧客価値につながる気づきを獲得し、統合ソリューションを進化させていきます。

■事業ごとに整備されている各ソリューションの機能やデータを容易に利用可能



また、事業DXでは、顧客やパートナーを交えて運営する「DXイノベーションハブ」を通して、ビジネスニーズやデジタル技術、ノウハウの蓄積・連携を図っていきます。加えて、リスクリングや外部からの人財の積極採用・登用により、DX人財を育成・確保し、体制の強化を図っていきます。



業務DX推進戦略

業務DXは、2021年度から全社業務DXプロジェクトを推進しており、その中で得られた知見・ノウハウなどを随時蓄積しています。

具体的な取組みとしては、長年掛けて個別最適化されている多種多様な業務プロセスやコード・マスタを全社で標準化し、全体最適を目指しています。業務プロセスやコード・マスタの標準化によって、社内に散在する各種データの一元化を可能とします。様々なデータを集積する共通データベースの提供も含め、業務プラットフォームの構築を推進しています。共通データベースに蓄積された各種データをダッシュボード機能により、経営者、管理者、現場担当者に対して、必要なときに必要な形で提供することで、データドリブン経営の実現にも取り組んでいきます。

■バラバラな業務プロセスやコード・マスタを全社で標準化し、全体最適を図る

